

## 事後評価報告書

1. 研究課題名:「インスリン分泌を制御する新たなエネルギー代謝調節ペプチド探索における日韓共同研究」

### 2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:中里 雅光（宮崎大学 医学部 教授）

2-2. 韓国側研究代表者:クン・ホ・ヨン（韓国カソリック大学 内分泌学科 教授）

### 3. 総合評価: A

### 4. 事後評価結果

#### (1)研究成果の評価について

日本側研究チームの卓越した生理活性ペプチド同定技術と、相手国側研究チームによる糖代謝や $\beta$ 細胞機能成績技術により、相補に補う形で共同研究が展開され、網羅的ペプチド解析により生理活性ペプチドの候補を同定した。新規となる生物活性系を用いたスクリーニングシステムを、異なる先端技術・経験の融合により構築し、新規生理活性ペプチド NERP-2 の生理機能、並びに病態に関する知見を得た。また、新規同定ペプチド NERP-4 の日韓共同研究が開始された。

本研究交流を通して、日本ではほとんど入手困難な糖尿病患者ならびに非糖尿病患者の膵島を用いての解析が可能になった。

#### (2)交流成果の評価について

日本側研究チームから相手国側へ、そして相手国側研究チームから日本側への訪問が短期ではあるが頻繁になされた。本研究交流で得られた成果により、韓国からポスドク 1 名が日本側研究代表者の研究室において、2 年間新規ペプチドの研究を行うこととなった。当該研究者は、日本の民間財団より競争的研究助成金を得ている。双方の若手研究者の人材育成に繋がり、長期的な日韓交流の強化のための信頼関係が構築された。

日本側研究チームおよび相手国側研究チームが主催するワークショップ、セミナー、シンポジウム等が開催されなかったようである。多忙な研究者間の事情を考慮したとしても、テレビ会議システムなどを利用した共同セミナーなどの開催の余地があったのではないかと考える。

### 3. その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

論文化されていない研究成果の早い時期における共著による原著論文発表が望まれる。NERP-2 や NERP-4 を活用して、どのようなシーズ研究や治療法開発が期待できるのか、実用化に向けた検討が望まれる。